シンポジウム・「語られた異界」

絵本に描かれた異界

沼賀　美奈子

1はじめに

絵本に描かれることによって、昔話の中で語られた異界はどのようなイメージの変容をとげているのだろうか。また異界を絵本化することでどのような作用がうまれるのか、その一端を明らかにしたいと思う。今回はその試みの第一歩として「舌切り雀」の絵本をとりあげて、そこに描かれる「異界」、雀の宿について考えたい。

2昔話「舌切り雀」における雀の宿

「舌切り雀」の異界である雀の宿が昔話においてどのように語られているのかを調べた。（表1参照）資料には、『日本昔話通観』（稲田浩二、小澤俊夫編、同朋舎出版、一九七八年）全巻を用いた。

すると、六八話中二七話が雀の宿へ向かうまでの試練が語られる試練型であった。試練の内容をみてみると、どれも爺が雀の宿の場所を教えてもらうために、何かを飲む。試練として爺が飲むものは、糞や小便、洗い水、その他の三種類に分類することができる。一番多いのが、糞や小便で二七話中一五話で語られている。その内容は、馬小便、牛小便、馬ふん、牛ふん、鳥のふん、子どもの大便、堆肥と多少のバリエーションがある。〔註1〕洗い水には、馬洗い水、牛洗い水、猫洗い水、犬洗い水、肥桶洗い水、湿洗い水、御器洗い水、布汁があり九話で語られる。その他としては、油、薪、馬・牛・犬の乳、竹、人参、大根、牛の血、川の水、牛汁、馬汁がある。いずれの話も指示されたものを飲むことによって宿の場所を教えてもらうことができる。雀の宿の場所は、竹藪（竹山、竹の森）が三二話、山奥七話、竹、山、林、花畑、畑、穴の中、松の木の上、が各一話である。「竹藪」と語られているものがほとんどであるが、他にも様々な表現や場所が出てきている。宿の様子への言及はあまりない。宿の様子に触れている語りでも「きれいな家」「笹ぶき小屋」「でっかい家」「一軒家」など家の様子を一言語っているだけである。

また、爺をもてなす雀の数は、ほとんどの話で一羽である。六八話中四九話で一羽、一九話で二羽以上の複数で登場している。そのうち親の登場が明確に語られているのは四話。また、雀が機を織っているのが一八話ある。機を織っている雀は一話を除いて、一羽で登場している。

もてなしの様子は、細かく語られていない。そして、爺にご馳走をして歌や踊りを見せ、土産を持たせて帰すという語りは、六八話中一七話とあまり多くみられない。爺に大きいつづらと小さ

いつづらを選ばせて、土産に持たせる場面は六二話で語られているのだが、歌や踊りの場面があるのは一九話のみである。

3 絵本「舌切り雀」における雀の宿

絵本では雀の宿がどのように描かれているだろうか。五〇冊の絵本をとりあげ（表2参照［註2］）昔話の中で語られた雀の宿と同じように調べてみた。（表3参照）

絵本では、試練を描いている作品自体が五〇作中、一五作と非常に少ない。爺が試練として飲むものとして、牛ふん、馬ふん、牛小便、馬小便などは全く登場しない。洗い水を飲むという語りが一一話ある。そして、石井桃子再話の『したきりすずめ』（33）では、洗い水を飲むこともない。

爺が「うしあらいどん　うしあらいどん、したきりすずめのおやどは　しらんかいの？」とききました、すると、うしあらいどんは、「おお、したきりすずめのおやどか。それを知りたくば、牛を洗うのを手伝え」といいました。

とあり、洗い水を飲むこともなく一生懸命牛を洗うことで雀の宿の方角を教えてもらっている。

雀の宿の場所は、全ての作品で「竹藪」と語られ、描かれている。また、爺を出迎え、歓待する雀が一羽と語られている作品は、三作品のみであった。他は全て、大勢の雀が描かれている。昔話では、一羽で登場することの方が多かった雀も絵本では、常に大勢でにぎやかに登場している。また、絵本の中の雀の宿では、ご馳走を出す様子が四八作品で、踊りを披露する様子が三一作品で、土産を渡す様子が全作品で描かれている。ご馳走、踊り、土産の三点全てが描かれる作品が『したきりすずめ』（22・図1）など三八作品あり、とにかく華やかな宴が催されているのが見て取れる。

また、絵本では雀の宿にいる雀が、自然動物としての雀の姿で描かれていることはまれである。四作品でそのままの雀の姿が描かれているが、他は雀の宿で爺を出迎えるときには着物を着ている。なかでも目をひくのが、雀の頭と人間の体という姿で登場する雀である。豆本『舌切りすゞめ』（16・図2）やテレビで放映された「まんが日本昔ばなし」の絵本『舌切り雀』（34・図3）でも雀の頭と人間の体で描かれている。

雀の頭に人間の体をつけた表現は、「舌切り雀」絵本における異界、異界のものを表す表現として面白い、特徴的なところである。こうした表現には、異質なものが連続的に繋がることで逆に本来あるべき姿を連想させ、それぞれの差異を強調するという効果があるのではないかと思われる。また、異界の遠さと近さとを同時に感じさせる表現としても機能しているのではないだろうか。

4 絵本化されたことによる変化

「舌切り雀」が絵本化されたことで、雀のもてなしが質素で単純なものから派手なものへと変化している。昔話では、舌を切ら

れた雀が、竹藪で一人機を織っていて、その家で爺を接待する、あるいは両親がお礼をするという家庭的なイメージがあった。しかし、絵本では爺を迎える者たちや場所が華やかに描かれている。加藤康子が『したきれ雀』（2）について「雀の隠れ里を一つの遊里と見たてることもできよう」と指摘しているが、絵本の中では、雀の宿は雀の家庭というイメージからは遠ざかっている。後の時代の絵本に多大な影響を与えた講談社の絵本『舌切雀』（50・図4）にも、それが強く見て取れる。雀たちの踊りの場面も爺と雀の再会場面の様子も何やらなまめかしさがある。

絵本に描かれた雀の宿や雀の御礼の仕方が、昔話の中よりも派手になっているのには様々な要因があると思われるが、ひとつには場面構成上の問題がある。登場する雀の数が、絵本では複数になっているのもモチーフの結びつきの強弱によって画面の印象を変化させるという基本的な画面構成を意識したことが一因ではないだろうか。

また、昔話を絵画化するためには、本来昔話では語られない細部を明らかにし、ストーリーや各場面を説得力ある表現として描く必要がある。そのため、異界の表現も日常性を帯びたものになりやすい。説得力ある表現と異界の非日常性を両立させようとする工夫が描き込む対象を増やし、華やかな印象をつくる方向へ向かわせているのではないだろうか。

絵本「舌切り雀」では、異界で雀を娘として絵画化したために、意図せぬところに意図しないエロティシズムが生まれた。それを避ける必要と時代の要請によってであろう、時代を追うごとに絵本の中の雀は幼児化している。〔註3〕絵本の中の雀の宿からは、人間の華やかな世界への憧れをうかがうことができる。絵本において異界を描くことは、人間側に漠然と存在していた感覚をを浮かびあがらせるという作用もある。また、絵本の中の異界は、昔話の中の異界をより日常と密接なものとして認識させる傾向があるのではないかと思う。今後、他の作品の分析をも踏まえて確認していきたい。

註

〔1〕爺が、糞を食べ、小便を飲むという絶対不可能なことを日常のこととして行ったことが語られている。小澤俊夫は、これを昔話における水準化作用とよび、日本昔話の一特徴であるとしている。

〔2〕今回取り上げた作品は、現在入手、閲覧できたもののみである。現在までに刊行された「舌切り雀」絵本は相当な数になると思われる。

〔3〕「かちかち山」の絵本では殺害場面の生々しい様子は、時代を追うごとに描かれなくなった。これは時代背景だけではなく、リアルに絵画化されたことによって殺害場面の残酷さの印象が強まったことが、その後の作品にこれを排除する傾向をもたらしたとも考えられる。

参考文献

加藤康子　「所見所伝小本型近世子ども絵本目録その一」「平成二年度科学研究費による草双紙研究報告書」一九九一年

内ヶ崎有里子『江戸期昔話絵本の研究と資料』三弥井書店、一九九九年

小澤俊夫　「日本の昔ばなしにおける水準化作用」「成城文藝」第七二号、一九七五年二月

越智和弘　「ヴァレリー・レポート」「武蔵野美術」no.119、二〇〇一年

（ぬまが・みなこ／白百合女子大学児童文化研究センター）

表1

	梗#1	試練	場所	様子	単	複	親	ご馳走	踊り	土産	機
青森80			山奥の竹やぶ	きれいな家		複				土産	
青森81		油	竹		単					土産	機
青森82	梗	小便・糞				複		ご馳走		土産	
岩手225	梗		山奥の竹やぶ			複	親	ご馳走			
宮城206	梗		奥の山		単		親	ご馳走(酒)	踊り	土産	
秋田69		馬小便・牛小便		古い小さな一軒家	単			ご馳走		土産	機
秋田70		布汁	山		単			ご馳走		土産	
秋田71	梗		竹藪		単					土産	
山形71	梗	馬洗い水・牛洗い水	林の奥		単			ご馳走	歌・踊り	土産	
山形72			山奥	笹ぶき小屋	単			ご馳走		土産	機
山形73	梗		笹藪		単			ご馳走		土産	機
福島53	梗					複	親	ご馳走		土産	
福島54		馬小便・牛小便	山奥	きれいな家		複				土産	
福島55	梗	馬糞・牛糞・鳥糞	竹藪		単					土産	
栃・群59			藪の奥		単				踊り	土産	
栃・群60	梗	裸で茨・子大便			単					土産	
栃・群61	梗				−					土産	
茨・埼・東27					単			ご馳走	踊り	土産	
茨・埼・東28	梗	薪・肥			単			ご馳走		土産	機
茨・埼・東29	梗					複					
茨・埼・東30	梗		竹山			複			踊り		
新潟151			竹藪			複		ご馳走	歌・踊り	土産	
新潟152	梗		竹藪		単					土産	
新潟153	梗	馬・牛・犬の乳			単			ご馳走		土産	
富・石・福12			竹の森			複	親	ご馳走		土産	
富・石・福13		馬洗い水・肥桶洗い水	竹藪	でっかい家	単			ご馳走	踊り	土産	機
富・石・福14	梗		山の中		単			ご馳走		土産	機
富・石・福15	梗		奥山		単					土産	機
富・石・福16	梗		山奥			複				土産	機
富・石・福17	梗		竹藪		単			ご馳走		土産	
山・長72						複		ご馳走	踊り	土産	
山・長73	梗	竹・大根洗い水			単			ご馳走		土産	機
岐・静・愛52			藪の中			複		ご馳走		土産	
岐・静・愛53	梗	人参・大根・牛の血			単					土産	
岐・静・愛54			竹藪			複		ご馳走			
京都21		馬糞・牛糞・湿の汁	藪			複		ご馳走	歌・踊り	土産	機
京都22			藪			複		ご馳走	歌・踊り	土産	
京都23		馬糞・牛糞・犬糞	藪		単			ご馳走		土産	機
京都24			藪		単			ご馳走		土産	
三・滋・大50		肥	竹藪		単					土産	機
兵庫13		馬小便・牛小便	竹藪		単			ご馳走		土産	機
兵庫14			竹藪		単			ご馳走	歌・踊り	土産	機
兵庫15			竹藪	一軒家	−						
兵庫16		牛小便	竹藪		単					土産	機
鳥取12		牛小便・馬小便	竹藪		単					土産	機
鳥取13					単			ご馳走	踊り	土産	
島根16					単			ご馳走		土産	
島根17		猫洗い水・犬洗い水・牛洗い水・馬洗い水	竹藪			複		ご馳走	歌・踊り	土産	
島根18	梗		竹藪		単					土産	
島根19	梗				単						
岡山64		牛糞・馬小便	竹藪		単			ご馳走		土産	
岡山65			広い広い花畑			複		ご馳走	踊り	土産	
岡山66	梗		竹藪		単			ご馳走		土産	
広・山57		御器洗い水・馬洗い水	川上	きれえな家	単			ご馳走		土産	
広・山58			藪		単			ご馳走	歌・踊り	土産	
広・山59	梗					複		ご馳走	踊り	土産	
徳・香83			松の木の上		単					土産	
徳・香84		肥			単			お茶		土産	機
愛・高41			藪	(竹の門)	単			ご馳走(酒)	踊り	土産	
愛・高42		馬糞・牛小便	竹藪		−					土産	
愛・高43			穴の中		単			ご馳走	踊り	土産	
福・佐・大69		川の水				複				土産	
福・佐・大70			竹藪		単			お茶		土産	
長崎74	梗				単			ご馳走	踊り	土産	
長崎75		牛洗い水・肥桶洗い水	竹山		単			ご馳走		土産	
鹿児島164		牛汁・馬汁		美さ家(きよらさやー)	単			ご馳走		土産	
鹿児島165	梗		竹藪		単					土産	
沖縄195	梗		畑		単					土産	

表2

	発行年	文	絵	出版者	ｼﾘｰｽﾞ名	
1	1723			丸屋九左右衛門	赤小本	(した)
2	未詳	未詳	未詳	鱗型屋	赤本	したきれ雀
3	未詳	未詳	未詳	未詳	赤本	舌切雀
4	未詳	未詳	未詳	鱗形屋	赤本	した切りすゞめ
5	未詳		富川房信	山本小兵衛	黒本・青本	大鳥毛庭雀
6	未詳		鳥居清満	未詳	黒本・青本	新板舌切すゞめ
7	未詳		鳥居清満	鱗形屋	黒本・青本	再板舌切すゞめ
8	1798	未詳	未詳	西村屋	黄表紙	児嘶舌切雀
9	1820	十返舎一九	歌川国貞	山本屋平吉	合巻	舌切寿ゝ女
10	未詳	楽亭西馬	歌川国芳	和泉屋市兵衛	合巻	舌切雀お宿栄
11	1804*	夷福山人	歌川広重	佐野屋	豆本	往昔舌切雀
12	未詳	可候	渓斎英泉	山本屋	豆本	舌切雀
13	未詳	未詳	未詳	佐野屋喜兵衛	豆本	舌切すゞめ
14	嘉永頃*		遠浪斎重光	未詳	豆本	舌切りすゞめ
15	天保頃*	未詳	歌川貞重	未詳	豆本	したきりすゞめ
16	1880		竹内栄久	宮田幸助発行		舌切すゞめ
17	1896	大江小波述	三島蕉窓画	東屋西丸記		舌切雀
18	1928	野口雨情	武井武雄	誠文堂	ｺﾄﾞﾓｴﾎﾝﾌﾞﾝｺ	舌切雀
19	1929	大浜鉄男	初瀬有紀	ひかりのくに昭和出版	ひかりのくに	舌きりすずめ
20	1937	徳永寿美子	鴨下　湖	大日本雄弁会講談社	講談社の絵本	
21	1943	柴野民三	林義雄	春江堂	湯浅修一編	
22	1945	岩田住人	村瀬有紀	ひかりのくに	ひかりのくに愛児絵本	したきりすずめ
23	1967	松谷みよ子	村上幸一	ポプラ社	むかしむかし絵本16	したきりすずめ
24	1967	松谷みよ子	遠藤てるよ	盛光社	(鶴書房)	したきりすずめ
25	1968	松谷みよ子	瀬川康夫	講談社	日本のむかし話3	ｼﾀｷﾘｽｽﾞﾒ
26	1970		大橋歩	日本ブリタニカ		したきりすずめ
27	1971	新谷峰子	若菜珪企画	ひかりのくに	ひかりのくに	
28	1971		風間四郎	小学館		
29	1972		前田松男	高橋書店		
30	1976	司修	司修	ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館		したきりすずめ
31	1977			高橋書店	日本むかしばなし	したきりすずめ
32	1977	小沢正	ﾑﾂｺﾞﾛｳﾌﾞﾛ	ポプラ社		
33	1977	筒井敬介	村上勉	あかね書房	えほんむかしばなし	したきりすずめ
34	1977	愛企画センター		童音社	テレビカラーえほん第27巻	舌切り雀
35	1978	小沢正	清水耕蔵	研秀出版	母と子の世界のｶﾗｰ童話ｼﾘｰｽﾞ	したきりすずめ
36	1979	木暮正夫	遠藤てるよ	ﾁｬｲﾙﾄﾞ本社	にほんのむかしばなし	したきりすずめ
37	1982	石井桃子	赤羽末吉	福音館	日本傑作絵本ｼﾘｰｽﾞ	したきりすずめ
38	1983	山谷泰子	井上智	ポプラ社	ｱﾆﾒﾌｧﾝﾀｼﾞｰ	したきりすずめ
39	1984	松田司郎	清水耕蔵	小学館	小学館の育児絵本	したきりすずめ
40	1989			小学館	小学館の育児絵本	したきりすずめ
41	1989	平田昭吾	成田マキホ	ポプラ社	世界名作ファンタジー	したきりすずめ
42	1990	西本鶏介	高橋信也	ポプラ社	ｱﾆﾒむかしむかし絵本3	したきりすずめ
43	1990	平田昭吾	白川忠志	ポプラ社	ｽｰﾊﾟｰ･ｱﾆﾒﾌｧﾝﾀｼﾞｰ	したきりすずめ
44	1994	早野美智代	片桐慶子	小学館	名作絵本5	したきりすずめ
45	1995	松谷みよ子	片山健	童心社	松谷みよ子むかしばなし	したきりすずめ
46	1995	末吉暁子	長新太	講談社	はじめてのおはなし絵本12	したきりすずめ
47	1997	小沢正	梅田俊作	フレーベル館	日本むかしばなし絵本ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ	したきりすずめ
48	1999	柿沼美浩	ﾆﾍｲｼﾞｭﾝｲﾁ	永岡書店	日本昔ばなしアニメ絵本9	したきりすずめ
49	2001		たかせちなつ	ダイソー	えほんシリーズ25	したきりすずめ
50	2001	千葉幹夫	鴨下晁湖	講談社	新・講談社の絵本8	舌切雀

表3

試練	単	複	ご馳走	踊り	土産		
1 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
2 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
3 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
4 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
5 -		複		踊り	土産		娘、雀頭+人体
6 -		複	ご馳走		土産		雀頭+人体
7 -		複	ご馳走		土産		雀頭+人体
8 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
9 -		複	ご馳走		土産		雀頭+人体
10 -		複	ご馳走	踊り	土産		娘
11 -		複	ご馳走		土産		雀頭+人体
12 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
13 -		複	ご馳走		土産		雀頭+人体
14 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
15 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
16 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
17 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
18 -		複	ご馳走		土産	雀頭+人体	雀頭+人体
19 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
20 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
21 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
22 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
23 牛・馬洗い水		複	ご馳走		土産		着衣
24 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
25 牛・馬洗い水	単		ご馳走		土産		雀
26 大根・人参		複			土産		着衣
27 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
28 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
29 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
30 牛・馬・菜洗い水	単		ご馳走	踊り	土産		着衣
31 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
32 牛・馬・菜洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
33 大根・人参		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
34 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体
35 牛・馬・菜洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
36 牛・馬・菜洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
37 牛・馬洗うのみ		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
38 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
39 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀
40 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
41 牛・馬洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
42 牛・馬・菜洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
43 牛・馬洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
44 -		複	ご馳走	踊り	土産	着衣	着衣
45 土団子・牛洗い水	単		ご馳走		土産		雀
46 -		複	ご馳走	踊り	土産		着衣
47 牛・馬・菜洗い水		複	ご馳走	踊り	土産		雀
48 牛・馬洗うのみ		複	ご馳走		土産		着衣
49 -		複	ご馳走	踊り	土産	着衣	着衣
50 -		複	ご馳走	踊り	土産		雀頭+人体

図1

図2

図3

図4